

令和4年度 学校自己評価表 廿日市市立四季が丘中学校

学校教育目標 「夢に向かってともに学ぶ～自尊～」

	評価計画				自己評価						学校関係者評価	改善方法		
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	昨年度	中間値	最終値	達成度	評価	結果と課題の分析		コメント	
確かな学力・体力の向上	生徒が主体的に学ぶ教育を推進し、自分の考えを表現できる力を育成する。(主体性と表現力の育成)	【主体性と表現力の育成】 ①日頃の授業をより主体的にする工夫・改善を行う。 ②「本質的な問い」による授業改善を進める。 ③ディスカッションによる思考の深化を図る授業づくりを行う。 ④ICTの効果的な活用を進める。 小中一貫教育による主体的な学びをさらに前進させる ⑤プロジェクト型学習による「ふるさと再発見学習」を進める。 ⑥「生き方学習」により主体的に進路を選択する力を育成する。	①-ア 自ら発見した課題に「考えを持つ」「考えを伝える」授業の構成 ①-イ 「めあて・振り返り」四季中スタイルの実践と充実 ②-ア 「本質的な問い」を踏まえた「質の高い問い」の設定 ②-イ 生徒の学びをファシリテートする授業の実践と充実 ③「四季中ステップ『四季が丘ディスカッション段階表』」による生徒の実態や学習内容に合った協働学習の実践と充実 ④-ア 生徒が主体的に学ぶためのツールとして効果的な活用 ④-イ G Suite等による個別最適な学習の実施 ④-ウ 廿日市市「授業改善のためのICT活用推進していきこう！事業」指定校としての取組 ⑤SDGsと関連付けた未来創造的な学習の実践 ⑥「15歳の生徒に身に付けさせたい力」の意図的、計画的な指導	・話し合い活動に主体的に参加できている」と回答する生徒の割合(授業評価アンケート) ・「『めあて・振り返り』四季中スタイルを実践している」と回答する教師の割合(教職員アンケート) ・「ディスカッションによる思考の深化を図る授業づくりを行っている」と回答する教師の割合(教職員アンケート) ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む生徒の割合(全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙) ・「ICTを活用している」と回答する教師の割合(教職員アンケート) 学力調査の「思考力・表現力」の問題の通過率(1月実施の学力調査問題による) ・「自分の将来のことを考えている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート) ・「自分の思いや考えを相手に伝えることができる」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	89%								
豊かな心	生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、互いに認め合い、協働しながら課題を解決することのできる力を育成する。(協働性と自己有用感の育成)	【協働性と自己有用感の育成】 ①人とつながることのできる生徒を育成する。 ②小集団(班)から大集団(学年・縦割り)までの組織的な活用を進める。 小中一貫教育による協働性と自己有用感の醸成 ③いじめを許さない心の育成とかかわり合いを深める学級・学年づくりを行う。 ④不登校生徒等へのスペシャルサポートルーム(SSR)担当教師と特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を整備する。	①-ア 生徒が主体的に取り組み、お互いに感謝を伝え合ったり、評価し合ったりする場の設定 ①-イ 「時を守る」「場を清める」「礼を正す」(四季中三大規律)を生徒が主体的に実践する委員会・係活動の充実 ①-ウ 生徒のディスカッションを経た生徒指導規程の見直しによる生活ルールの主体的な実行 ②-ア 生徒会行事等におけるリーダーを中心とした主体的な活動の実施 ②-イ 異学年縦割り班でのリーダーを中心とした主体的な活動の実施 ③-ア 学年担任制を生かした教育相談体制の充実 ③-イ アセスの活用による早期発見・早期対応 ③-ウ 校内いじめ防止対策委員会の機能化(組織的対応) ④-ア SSRにおける指導と校内チーム体制の一層の充実 ④-イ コグトレオンラインの導入による不登校の未然防止の取組の充実	・学級活動、行事、係・委員会活動などに前向きに取り組んだ」「時間いっぱい一生懸命掃除をしている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート) ・「友達や先輩後輩と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合(生徒アンケート) 自己有用感・自己肯定感に関する項目に肯定的な回答をする生徒の割合(生徒アンケート)	90%	94%								
信頼される学校	働き方改革を進め、子どもと向き合う時間を確保し、地域と連携・協働し、教育の質を高め、信頼される学校をつくる。	【働き方改革の推進】 ・学年担任制の利点を生かし、子どもと向き合う時間を確保し、親身になって生徒に関わる組織を確立する。 ・職場環境の整備と教職員の意識改革を推進する。 【積極的な情報発信】 ・積極的な情報発信を行い、保護者・地域の学校への理解を深めるとともに、協働関係を深める 【地域連携、地域貢献】 ・地域の学校として地域の力を学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域貢献を進める。	①働き方改革による教育の質の向上 ・チームとしての教育活動の推進 ・業務の平準化の工夫 ・行事や取組等の見直し・廃止の推進 ②学校からの発信 ・定期的な学校だよりの発行 ・ホームページの定期的な更新 ・各学年、進路だよりの発行 ③PTAとの連携 ・PTA活動の工夫改善、保護者満足度の向上 ④地域との連携 ・地域学校協働活動の充実	・「時間外勤務80時間超」にならない職員の割合 ・「四季が丘中学校は働きやすい職場だと思う」と回答する教職員の割合 ・「学校の様子がよく分かる」と回答する保護者の割合 ・「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と回答する保護者の割合(保護者アンケート) 「四季が丘中学校は、地域の学校として地域の力を学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域貢献を進めている」と回答する地域関係者の割合(学校関係者アンケート)	90%	87%								
【小・中・共通】	「小・中・共通テーマ」 協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成 「協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成」 家庭学習習慣の確立 小・中・共通の生活習慣の徹底	・本質的な問いによる授業改善 ・合同授業研究、合同教育研究会の実施 ・各校や発達段階に応じた学習習慣を確立するための期間・内容の設定 ・小中合同あいさつ運動の実施	課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査) 「私はふだん家では一日1時間以上勉強しています」と回答する生徒の割合(生徒アンケート) 「あいさつがきちんとできる」と自己評価する生徒の割合(学校評価生徒アンケート)	85%										
					80%	59%								
					90%	87%								

評価基準	評価基準	目標値に対する達成度
目標値に対する達成度	A:十分に達成されている	100%以上
	B:概ね達成されている	80%以上100%未満
中間(最終)値 ÷目標値×100	C:やや不十分である	60%以上80%未満
	D:不十分である	60%未満

※複数の項目の平均値で評価する。